

## 学外連携セミナー：ライデン大学・デルフト工科大学

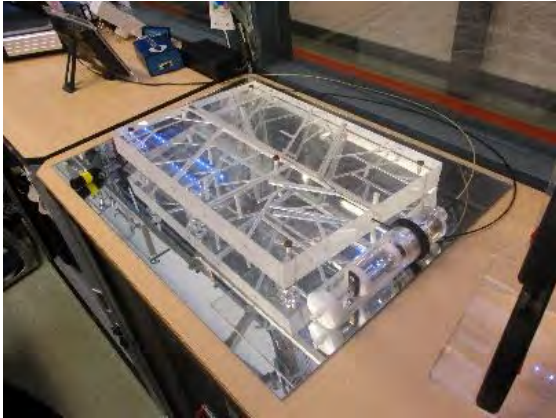
ハイブリッド医療人養成コース 医学系大学院生 4年 武岡 陽介

2016年1月31日から2月2日にかけてオランダに研修に行かせていただきました。

到着当日より、現在、ライデン大学に留学中の大坪先生にお世話いただき研修を行いました。まず、ライデン大学メディカルセンター（LUMC）を訪問させていただき病院内、外科医局を中心に見学させていただきました。病院内は広く、外観もさることながら美術館のような作りになっており、ところどころに美術品、オブジェが展示されており、しかも整然と美しい内観なことに感心しました。医局へ御案内いただき大坪先生の同室の先生方とお話しする機会をつくっていただきました。柔和な雰囲気を出し出す方々で、親切に接してくださいました。また、非常に真摯に集中してデスクに向かわれている姿が印象的で、個人的に刺激を受けさせていただきました。その後、イメージガイドサージェリーに関する講義をLUMCの大学院生の方にしていただきました。実際の手術現場で癌部位の可視化に成功されている動画、画像を見せていただき、大変驚きました。一次抗体、二次抗体の選択、投与方法など詳しく教えていただき、非常に興味深く、聞かせていただきました。シンプルかつ、具体的で見やすいスライドを作っておられ、その意味でも勉強をさせていただきました。



次に、デルフト工科大学へ訪問いたしました。デルフトではダンケルマン教授と面会させていただき、ダンケルマン教授自ら、大学内を案内していただきました。また、デルフトで行われている、多方向に可動させられるカテーテルや、可動性の高い鏡視下用鉗子、**needle surgery**、**biopsy** に用いる手術機器の開発に関する講義をしていただきました。研究室に近接して手術器具が実際に制作できる工場があり、スタッフ、学生は、そこで制作まで可能という設備があり驚きました。学生への講義は医療系と工学系が50%ずつ行われているという話もあり、学生時代からのプロフェッショナル育成にも力を入られているようでした。自分もハイブリッド養成コースの一員として、今まで以上に意欲を持って手術機器の製作やアイデアを創出しようという良い刺激を受けさせていただきました。



3日目にはLUMCの研究室を見学させていただきました。そこには、大坪先生の同僚の方々がいらっしゃいました。同僚の方々はみなさん、ヨーロッパ出身の方々で母国語と英語を流暢に話されていました。自分もなんとかコミュニケーションをとるために、つたない英語で話をさせていただきましたが、優しく耳を傾けていただいたこともあり通じたのはよかったのですが、自分の英語力のなさを痛感し帰国後も英語を頑張ろうという刺激を受けました。また、ラボでは大坪先生の研究の一端を見学させていただきました。

午後にはオランダシーボルト記念館に行かせていただきました。江戸時代にシーボルトという人が、日本に与えた影響、日本に対して大きな愛情をいだいていた姿がよみがえってくるような展示物の数々で、日本人の一員、長崎に住んでいるものの一員として感慨深いものがありました。



総じて、オランダで出会わせていただいた方々は、非常にはつらつと研究、臨床に従事されている印象で、ざっくばらんに、お互いに話し合い、切磋琢磨されている姿に感銘を覚えました。自分としても非常に良い刺激を与えていただきました。日々の自分の研究態度等、反省すべき点が多々あり、これを生かして今後の研究生を送りたいと思いました。